

(前回までのまとめ)

秀吉と家康の違い

| 秀吉  | 家康   |
|---|--|
| 天下を取ってからも戦略が無かった。<br>奇抜な戦術を編み出して敵の裏をかく戦術家だった  | 天下を取る前から平清盛・源頼朝・足利尊氏等の戦略についてよく勉強して、大将たる者の心得を身につけていた。 |
| 小田原の「一夜城」・「すのまた城」など思いつきで行動して成功を取めたが戦略が全くなかった。 | 周辺の有力大名から戦いの戦術、領国の統治法について実践的体験的に学習していた。              |
| 仕えた家来は利に聡く「秀吉流儀」に仰合しても、豊臣家に対する終始一貫の忠誠心が欠けていた。 | 有能な人材を見つけて適材適所に用いた。敵方の逸材も積極的に起用して、味方の陣営の補強に努めた。      |
|   | 歩いた後はストーリーになっていた。無駄な戦いが無かった。                         |

戦国の三傑

| 信長       | 秀吉           | 家康         |
|----------|--------------|------------|
| 専制君主     | 独裁者          | 親方様        |
| 膨張主義者    | 我意下達（独断速攻）   | 家来衆/農民の保護者 |
| 征服者      | 戦術家          | 戦略家        |
| 革命家      | 外交家          | 大事優先小事後回し  |
| 大会社の創業社長 | 茶坊主が側近       | 法治主義       |
| 生殺与奪権者   | 中小企業の先生社長/親分 | 知恵者が側近     |
|          | 戦略欠陥者        | 集団/組織重視    |
|          |              | 大会社の実力社長   |

## 『藩』という呼び名は俗称でした

藩という名称は江戸時代でも、公式には全く使われませんでした。大名領のことは、例えば会津藩なら「松平肥後守御家中」というのが正しかったのです。大きな大名の領国の場合には、米沢藩第9代藩主上杉鷹山が家督を譲るときは、「伝国の辞」という心構えを申し渡したように普通は『国』と言ったのであります。

「藩」というのは、元々中国では、辺境の少数民族の居住地で軍司令官に統治が任された地域のことを言ったものでした。

それを新井白石のような一部の儒学者が大名領国はそれに似たものだとこじつけて、私的レベルで使っていたのです。

それがどうしたことか、幕末の長州で、「我が藩」「長藩」などというように使われるようになり、他所の志士たちにも使う者が始まりました。坂本竜馬も「脱藩」したのではなく、「脱走」としか当時の記録には無かったのです。

当然「藩主」も「藩士」も「藩邸」という天下公認の名詞はありませんでした。

「藩」という“公称”は明治元年（1868年）明治新政府が、旧幕府領に府県を設置したのに対し、旧大名領には藩の呼称を用いたことが発端になって、明治時代から民間に流通したものです。

「天領」などというのも、明治初年に新政府の管轄になって生まれた言葉です。ここで問題を出しましょう。

江戸時代讃岐の国の三つの藩の正式呼称は何だったでしょうか？

高松藩は？（松平讃岐守御家中）

丸亀藩は？（京極佐渡守御家中）

多度津藩は？（京極壱岐守御家中）

平安時代までの国司（讃岐守等）は実際にその国の支配権を待ち、下級貴族の場合は本人、または皇族や高級貴族の場合は代理人が任地に行き支配しました。

江戸時代になると公家の官位官職と武家官位が分離します。

本来、各官職には定員があるわけですが、公家に任命し、その定員とは無関係に幕府が武士の官位・官職を決め朝廷に任命させます。この時点で武家官位は単なる称号に過ぎなくなります。大石内蔵助が朝廷の蔵を管理していたわけではありません。